



2004年度 MDRT日本会 広報委員長

由井 伯秀

(アリコジャパン)

## 『MDRT SPIRIT —WHOLE PERSONを目指すということ—』

MDRT(MILLION DOLLAR ROUND TABLE)とは何でしょうか？米國本部の原文では“The Premier Association of Financial Professionals”（直訳すれば・金融専門家達によって構成される第一義的（最高）組織・）と書かれています。理念としては「顧客第一主義」、「社会貢献」、「プロフェッショナリズム」、「相互研鑽」を活動の柱とした“分かち合いの組織”であり、会員は日々WHOLE PERSONを目指し努力している、と表記されています。では具体的にはどうすることなのでしょう。J・B・ピケット（米國本部会長）の言葉を借りればこうです。“MDRTの会員であるということは、生命保険と金融サービスの面における俊足ランナーとして人格面も含め我々自身が増々良くなるよう、エクセレントになるための努力をし続けるという意味であります。会員になったということはMDRTの趣旨に賛同し、共に前に進む努力をしていくということです。倫理綱領を守り、クライアントのために最善を尽くすことを約束したということです。お互いを助け合いながら、お互いを押し上げていく。励まし合いながら、そして高め合い続けています。メンバーになることによって、助け合い、教え合って育っていくのです。”これは会の本質を端的に表していると思います。つまり会員になって初めて知識・スキル面と人格面とを本格的に鍛え上げることの重要性とその価値に気付き一生かけて努力し続けることに各々がコミットするということです。最初は皆、ただの優等者です。もっと言えばWHOLE PERSON（全人格者）なんてそうそういるものでもないしなれるものでもありません。重要なのはその価値に気付きそこを目指す努力をし続ける決心をし行動に移すことなのです。ここが他の業界にも数多くある優等者団体とMDRTが大きく違うところなのです。ではなぜ私たちの業界だけこんな組織があるのでしょうか。それはおそらく私たちが扱っているモノが他の物品や金融商品とは違い、唯一ヒトの命に値段をつけたり、ヒトの一生の糧を生み出したりするものだからなのではないでしょうか。だからそこには他にはない崇高な使命が生じそれを扱う者に対しても人格の向上という重い荷も負わせることになるのです。歴史的に見ても政治、経済、文化すべての面で名声を残した人々は皆、自己の金銭欲や名譽欲のみを目的に成功を収めたわけではないとよく言われます。おそらくもっと高い理想を目指し社会のため多くの人々のため何か“別の太陽のようなもの”を追い求めその結果必然的に人や財産が集まってきただけなのでしょう。でもそれは多くの場合トップかそれに準ずる人の話で、私たちの業界では末端の1エージェントにまでそれが本来課されるのです。この違いこそが私たち

MDRTの存在意義と目的を明確にしているのではないのでしょうか。

時代の大きなうねりの中で日本経済のビジネスモデルは明らかにその形を変え法制度を含め様々な社会システムが変質を遂げてきています。経済の発展とともに国民意識もマーケットニーズも大きく変わってきています。日本は特殊な歴史的背景をもってはいえ先進資本主義国の一員であることに間違いはありません。にもかかわらず旧態依然とした過去の成功事例のしがらみに囚われ、多くの事業主側の人事戦略と採用システムがその社会的機能を失いつつあります。今や社会悪とまで言われてしまう使い捨て型の人事ビジネスモデルは、本来、崇高な使命感とともに取り扱うべき商品をただの物品以下に貶めてしまっているケースが少なくありません。確かに過去のシステムによって保険の普及率は96%にまで到達しました。国の金融経済戦略としては世界で最も成功した事例のひとつでしょう。しかしそれによって現在表面化している諸問題の解決は果たして容易なものと言えるでしょうか。おそらくこれを解決する最短の道は保険や年金という商品を開発、運用、販売、経営自体も含め取り扱うすべてのチャンネルに正しい価値観と教育を徹底すること以外に選択肢はないのではないのでしょうか。これこそMDRTスピリットそのものの理解を業界全体に広め浸透させることがその手段になり得ること意味していると思います。これは利潤の追求という企業経営と決して反駁するものではありません。今年、個人情報保護法が施行され、銀行窓販が解禁されます。保険業界の販売チャンネルはさらに多種多様になり取り扱う側の人数は100万人を超えと言われております。だからこそMDRTの使命は今後さらに重いものとなってゆくはずで、現在の会員もその本質的理念を再認識し、決してただの優等者に成り下がってはいけなと思うのです。そしてMDRTが社会全体に対し教育機関としての役割を果たせるよう発信し続けるべきだと考えるのです。明治期、福沢諭吉が“INSURANCE”を“人類の英知の結晶としての「保険」と訳し初めて日本に紹介したことがしばしば思い出されます。時代の過渡期、欧米から20年は後れてしまいましたがいずれの先進国も通ってきた道です。ピケット会長が22年前、ダラスのアンニュアルミーティングで聞きその後座右の銘としてきた言葉、「今いる場所はそれほど重要ではない。どこに行きたいのか、どこを目的地としているのかが重要だ」、この言葉の意味を深く胸に刻みMDRT日本会の広報委員長として広く発信し続け、その活動自体が社会に対し何らかの意義が持てるよう微力ながらも努力し続けていきたいと考えています。



# 11月11日(火) 第5回 MDRT 都内ブロック研修会 『TOTから学ぶ』



**講師**

**由井 伯秀氏 (ユイ トシヒデ)**

「オーエスシーコンサルティング株式会社 代表取締役社長」

**テーマ「2008年度TOTミーティング・フォーカスセッションの講師を終えて」**

【開催日】 11月11日(火)

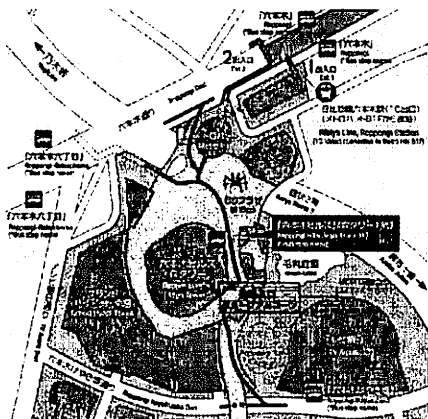
【時間】 15:30 (受付開始)  
16:00~18:00 第一部 (うち講演90分)  
18:30~ 第二部  
(有料メントアリングセッション 参加費は当日回収)  
20:30 終了

【金 費】 第一部 無料 第二部 6000円

【問合せ】 090-1601-7324 牧野 (フルデンシャル分会)  
090-8942-7854 青木 (損保ジャパンひまわり分会)

【会 場】 六本木アカデミーヒルズ カンファレンスルーム (49F)  
地下鉄  
日比谷線/六本木駅 徒歩3分 H04 コンコースにて直結

【会場アクセス】



都内ブロック長  
高尾 益臣 (AIGエジソン分会)

■ 由井 伯秀 (ゆい としひで)

1965年、東京生まれ。  
大学卒業後、大手国内証券会社入社、上場企業のファイナンス、新規株式公開業務、M&A、市場調査、企業分析業務、広報・宣伝IR業務、法人個人の資産運用業務に従事。社長表彰、部門記録保持など実績豊富。従業員組合役員などを歴任。

97年外資系保険会社へヘッドハンティングにより移籍。  
エージェンシーマネージャー。

営業管理指導責任者業務及びコンサルタント業務に従事。

各種表彰連続受賞。個人、ユニット全国1位。

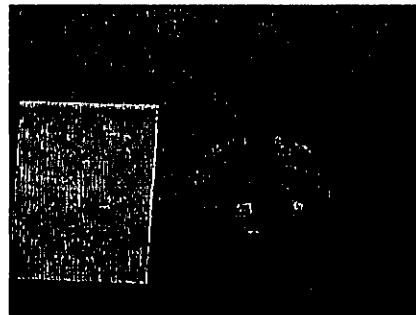
MDRT日本会理事、広報委員長、分会役員、分会長を歴任。

06年弁護士、税理士、不動産専門家、トップエージェントらと独立起業。

オーエスシーコンサルティング(株)設立。

保険会社各社表彰連続受賞。個人タイトル連続1位。

MDRT トップオブザテーブル会員、現在に至る。



↑ ↓ 2008年度TOTミーティングにて



ーブロック長コメントー

今回講師にはOSCコンサルティングより由井伯秀氏をお迎え致しました。由井氏は幅広い金融業界での知識と経験を踏まえ、06年に金融コンサルティング会社を設立。保険に留まらず、金融全般のコンサルティング業務で多くの信頼を集めています。金融のプロフェッショナルとして大いに参考となるお話、また先日行われたTOTミーティングのお話などホットな話題を聞ける事を私も楽しみにしています。席に限りがありますが、皆様とお会い出来るのを楽しみにしています。

**第一部  
出席**

FAX 番号 03-5537-6866  
(ソニー生命 勝田 気付)

申込締切日 11月8日(土)

※第二部の出欠は当日伺います。

氏 名: \_\_\_\_\_

分会名: \_\_\_\_\_

